

郡山市PPP/PFI手法導入優先的検討基準に基づく結果報告書

検討段階

PPP/PFI簡易導入可能性調査

事業実施課

文化スポーツ部文化振興課

施設名称

郡山市民文化センター及び
郡山市音楽・文化交流館

公共施設総合管理計画に基づく検討開始年度

2018年度

所在地

郡山市民文化センター：郡山市堤下町1番2号
郡山市音楽・文化交流館：郡山市開成一丁目1番1号

定量評価結果概要（担当：行政マネジメント課）

【前提条件】
①PFI事業によるLCCと従来手法による「大規模改修」と「建替」の各PSCによる比較
②事業方式：BT0 (Build Transfer Operate) 方式 (PFI法) (RO方式も同様)
③事業期間：施設整備期間を「1年」及び「2年」の2パターン、維持管理運営期間15年
④収入項目：使用料を除きその他収入項目はゼロ円
⑤簡易計算：国土交通省「VFM簡易計算ソフト」により算出
【VFM】大規模改修の場合20.0%、建替の場合21.1%

定性評価結果概要（担当：文化振興課）

以下の理由から、PPP/PFI手法の有効性は高い。
■郡山市民文化センターの業務スケジュールにおいてPPP/PFI手法を活用することが十分に可能
■整備と維持管理を一体的に行い、長期的視点で維持管理運営をすることでノウハウの蓄積、計画的なサービス向上策の実施、維持管理コスト等の縮減が期待できる。
■施設の維持管理やソフト事業の実施など民間事業者のノウハウ蓄積が期待できるとともに、安定的かつ高品質なサービスの提供が期待できる。

総合的な評価結果（担当：文化振興課）

郡山市民文化センターは、開館から35年以上が経過していることから、施設全体の劣化状況を把握し、PPP/PFIの活用可能性を探ることは必要不可欠である。また、郡山市音楽・文化交流館においても同様であり、郡山市民文化センターとの包括した検討が必要である。
簡易的に実施した「定量評価」・「定性評価」の結果は、ともにPPP/PFI手法が有効であることから、継続してPPP/PFI手法を優先的に検討する。

次の検討段階

PPP/PFIの詳細な導入可能性調査を実施する

備考

- ・VFM計算時、利率・SPCや資金調達費用・税率等については、過去のPFI案件平均等を採用
- ・郡山市民文化センター、郡山市音楽・文化交流館とも老朽化の補修は行っておらず、現状等は把握していない。

（郡山市民文化センターは新耐震設計法に基づき設計、郡山市音楽・文化交流館は耐震改修実施済）